

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.63
2015.11

怖い顔ってよく言われます～

小春日和のひと休み

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

キリリとした顔の“クロスズメバチの仲間”

紅葉の見頃が続いていたある日、色づいた葉っぱの陰に佇むクロスズメバチの仲間に出会いました。フッと目が向いた時に「ん？何かいる」と、覗き込んでみると何ともメカニックな顔立ちの生きものが…。紅葉に彩られていた周辺の柔らかな雰囲気とは対照的な妙にキリリとした顔が印象的でした。この時期はそれまで賑やかだった虫の音がパタリと止み、活動している虫の姿も日に日に減ってきます。そんな中、越冬場所を探しているのか、結婚相手を探しているのかはわかりませんでした。気温の上昇を待って動くタイミングを見計らっているかの姿に「頑張っているんだね～」と声をかけたくくなりました。スズメバチには「刺されるから怖い」タイプもいれば、「刺激しなければ刺さずにおとなしい」タイプもいることがわかった小春日和の出来事でした。

What is “Kurosuzumebachi”?

「黒くて小さいスズメバチ」

スズメバチ科

体長：10～19mm 前後

分布：日本全土

クロスズメバチの仲間は主に地中に巣を作る。大型のキロスズメバチの仲間と比べおとなしいが、巣などを刺激すると攻撃してくるので注意が必要。中部地方には蛹や幼虫などの「蜂の子」を炊き込みご飯や甘露煮にして食べるところもある。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



休暇村と温泉館・ピクニックセンターをつなぐ湯ノ沢大橋

散歩や各温泉を楽しまれる方たちで往来の多い吊り橋、「湯ノ沢大橋」。そのもとに7番標識は立っています。このエリアの木道は地面より幾分高い構造なので、木々の枝ぶりも目線の中に入ってきやすいです。

網張の森 セルフガイド



キハダ この秋、足湯付近の木道でたくさんの黒っぽい実をつけた木がありました。樹皮を削ると内皮が黄色い事から、その名がついたキハダ(黄肌)です。このキハダの隣には、実をつけていないキハダがもう一本並んでいますが、こちらは雄のキハダです。このように雌花と雄花とが別の株(個体)に分かれている種子植物を、雌雄異株といいます。

キハダはミカン科という事で、試しに実をかじってみました。柑橘系の爽やかな香りと山椒の果皮のようなピリッとした刺激がし、その後独特な苦みの余韻が残りました。どうも、食べるのはヒヨドリやツグミ・シロハラなど、野鳥に任せておいた方がよさそうです。一方、樹皮は生薬や染料といった用途があります。



夜半の雨でぬれた木道、頭上には無数のキハダの実が広がる

キハダの実は始め緑色ですが、時間をかけて色合いを変化させていきます。実が黒くなるにつれ、奇数羽状複葉の葉を落とし、来春に向け冬芽の準備に入ります。



ピエロに
みえる?

「葉痕が冬芽をとり囲んだ部分」
が笑顔にみえてユーモラス!



アミハリ・バード vol. 6

コガラ

科名:シジウカラ科
全長:約12.5cm
生態:留鳥
分布:九州以北



木々の葉が落ちた今、コガラがシジウカラの群れに混ざっているのを、よく目にします。混群を作るのは厳しい冬を乗り切るのに得策のようで、ヒガラやゴジュウカラ・コゲラなども群れに加わっている事があります。

コガラは留鳥で、標高の高い網張でも繁殖が行われ、一年を通してコガラの気配を感じることができます。

しかし、暖かく越冬しやすい土地に下りる個体もいるので、漂鳥的な側面も有しています。

コガラはせっせと幹回りを飛び回っていますが、昆虫やクモなどを食べるだけではなく、秋になると木の皮のすき間にヤマウルシの実などを蓄える冬支度を行います。せっかく仕込んだ餌を、シジウカラなどに見つかり取られてしまう事もあるようですが、群れを維持する経費とコガラは割り切っているのかもしれない。

これからの季節、網張は奥羽山脈を越えてくる強い季節風と一緒に吹きつける雪に覆われ、白一色の風景に変わります。とは言っても、ビジターセンターに通ずる幹線道路は大型ロータリーによって交通が常時確保され、暖房の効いた室内では、連日のように訪れる温泉客やスキーヤーの姿が見られます。しかし、今から60年前の網張の冬はどうだったのでしょうか？ 前回に引き続き、当時を良く知る村上さんにお話を伺いました。

第三話・・・ 雫石町営時代の「網張館」管理人を勤めた村上^{むらかみ} 匠^{たくみ}さんのお話の続き・・・

「雪で埋まった玄関を、穴を掘って入れるようにした」

周囲の木々が葉を落とすと、それまで網張を訪れていた湯治客や登山者も、めっきり数が減り、根雪になる頃には、訪れる人は稀になる。たまに訪れてくる友人を除けば、村上さんは、長い冬のほとんどを、一人で過ごした。里に下りることも、一冬に何日も無かったという。

テレビもラジオも無く、夜になると灯油ランプの灯りが、ぽつんと一つ。それでも寂しいと思ったことは一度も無かったそうだ。

「ひどい時は、一晩で1m50cmも雪が積もります。毎日、雪降ろしをしないと建物全体がつぶれてしまうのです。玄関もすぐ埋まってしまうので、穴を掘って出入り口を確保します。そんな時、山登りのひとがやってくると無性に嬉しかったのです。天気が良くて、お客もこない日は、一人でスキー履いて

黒倉や鬼ヶ城のあたりまで登ります。そしたら息を飲むような絶景を1人

占めです。いつだったか、東京から来た山岳写真家の三木慶介氏(注1)を鬼ヶ城に案内したことがあります。彼、すっかり気に入ってそこから撮った岩手山の写真は山岳写真グランプリを取りましたよ。

冬の真ただ中でも温泉の湯量が減ったり、ぬるくなったりすると元湯の様子を見に行かなければならない。「深雪の中、息を切らして2時間かけて登り、帰りはたった4分で降りてきます。ある時、気を抜いて下ってきたら、大きなブナに激突して骨を折っちゃいました。」



1月の網張温泉、すっかり雪に埋もれた建物後方の風景は今も変わらない。(昭和34年ごろ・村上さん撮影)

そのうちに、網張にスキー場開発の話が出てくるようになった。当然、網張の山を熟知した村上さんにもコース設定の意見を求められ、若き日の三浦雄一郎氏(注2)を連れて現地調査の案内をしたのも今では良い思い出。今とは比較できない位、物が無かった時代、村上さんは網張を訪れる人たちに精一杯喜んでもらえることだけを考えて働き続けた。その後、網張は県内でも有数の温泉保養地・スキー場へ発展していくが、途中で村上さんは網張を離れることとなる。

村上さんは現在83歳、今でもお元気に盛岡市で写真スタジオを営んでおられる。そして時折、ビジターセンターにその懐かしいお顔を見せてくれる。



若き日の村上さん。玄関は雪に埋もれている。看板の「網張館」はダケカンパの枝で自作したもの。

現地調査の際、→ 網張元湯でくつろぐ三浦雄一郎氏(村上さん撮影)



(注1)三木慶介 1922年東京生まれ。昭和を代表する山岳写真家、全日本山岳写真協会会長を務める。

(注2)三浦雄一郎 1932年青森生まれ。日本のプロスキーヤーの草分け的存在、2013年80歳でのエベレスト登頂は世界最高齢記録。

環境省盛岡自然保護官事務所からの報告

—安心登山—
「モバイル登山届システム」
について



岩手県内では現在、登山口を含め中継ポイントでQRコードを読み込むことにより①入山届の役割、②各ポイントでの位置登録(救助に役立つ)、③救助要請機能、④管理者からの情報提供(天候、緊急情報、観光情報)等、登山者の安全対策を支援するリスクコミュニケーションの開発がIT産業振興の一環として滝沢市で進められています。

このシステムは震災などで連絡が取れないことによる心的負担や不安を軽減したいとのことから、安否の確認「知らせたい」を支援する目的で開発が進められた「ココいるNet」というスマホ、携帯に対応したソフトを活用しているものです。

滝沢市では実証実験を行いながら来年に向けシステム運用を検討しており、県内の自治体(雫石町、八幡平市、滝沢市)が連携して、山では岩手山、栗駒山、早池峰山、沿岸では潮風トレイル等への普及を視野に入れているようです。 ・河村 俊彦レンジャー・

自然観察会報告

10月12日

自然歩道を歩く 岩手山麓ウォーキング



毎年恒例となった「全国自然歩道を歩こう」の一環として滝沢市とビジターセンターが呼びかけて開催。相の沢から馬返しまで往復13kmのウォーキングを予定。当日は強い雨で、鞍掛山往復にコース変更。それでも総勢35名が参加して、霧に覆われた幻想的な紅葉の森の中でウォークラリーを楽しみました。

10月18日

秋の紅葉・網張高原ハイキング

地元のペンションで組織する網張高原温泉郷運営協議会とのコラボ行事。真紅と黄色の葉が澄み切った秋の青空に映える旧網張街道をのんびりと散策。車で走っていると、見過ごしていた自然の不思議さに気づきました。21名の参加。



11月1日

森林教室 親子で自然クラフトを楽しもう



参加者は2歳、3歳、4歳、5歳・・・の子ども達とお母さん、お父さんという日頃のビジターセンター行事と違う雰囲気でのびのびと楽しめました。森へ行って木の実や枝、落ち葉、キノコを拾ってきて、不思議なファンタジーの世界を作り上げました。子ども達は、自然物から大いなる想像する力をもらったようです。スタッフ含め総勢16名。

11月15日

クラフト教室 世界に一つ、手づくりほうきに挑戦



行事リピーターの細川さんの提案で実現した企画。講師の平石農藝社、階さんには、いつもより多めに材料のホウキグサを栽培してもらいました。15名が難しい技に挑みました。苦労の末、出来上がった「手づくりほうき」に皆、大満足。

***インフォメーションコーナー**
詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

スノーシューハイキング 「冬の網張の森を歩く」

12月20日(日)

網張ビジターセンター集合
9:30~12:30
定員20名
参加費大人500円
小学生300円



滝沢市と共催 「鞍掛山麓 アニマルトラッキング」

2016年1月23日(土)

相の沢駐車場集合
9:30~14:30
定員20名
参加費大人500円
小学生300円



ミニ企画行事 (予約はいりません)

- 「ちょっと森林浴」
- 「解説員と回るワクワク館内ツアー」
- 「自然で遊ぶミニクラフト」
- 「森のスケッチに挑戦」
- 「網張の森雪上ハイキング」



など週3回程度実施します。
月によって開催日が異なりますので
ホームページで確認されるか直接VCへ
お問い合わせください。

岩手山地区パークボランティア写真展 「自然が大好き」



「クジャクチョウ」一瞬のチャンスでした
米澤 一男さん



「ヤマネ、見つけた！」VC行事にて
阿部 丕顕さん



「天空の道」やっと登れた12月の岩手山
岡野 治さん

●現在開催中の網張ビジターセンター企画展● 12月28日までビジターセンター展示コーナーにて

「自然が好き」「岩手山が好き」「人々の交流が好き」という仲間が集い、「パークボランティア」として活動を始めて10年が過ぎました。さまざまな活動を通して撮りためた写真を展示することにいたしました。

岩手山地区のパークボランティアは、平成17年に発足、現在25名が自然ふれあい行事、避難小屋の維持管理、登山道のゴミ拾い、外来植物の駆除など多方面で活動中。

モモンガのつぶやき

目を楽しませてくれた色とりどりの紅葉も終わり、森は晩秋の装いになりました。「葉っぱも落ちてしまったし、あとは殺風景な景色が広がるだけか…」と思うなかれ！一見落ち葉だらけの足元にも小さな体の大きな命が次の準備を始めています。お腹いっぱいにお腹を抱えているハムシのお母さんや葉っぱを一心不乱に食べているヒメツチハンミョウ、卵を産み終え力尽きたヤブキリのお母さん…。
“命”について考えさせられる季節だなぁ。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆9月 2, 876人 ◆10月 2, 549人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆9月 11.97℃ ◆10月 4.77℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期(11月~3月)毎週火曜日休館 9時~17時
年末年始休館 12月29日~1月3日